

ID:

患者名:

医療放射線被ばく説明書 RI検査を受けられる方へ

あなたの病気を診断する為に、RI 検査を予定しています。

この検査はごく微量のラジオアイソトープという放射線を出す放射性医薬品（放射性物質）を投与し、体内に分布した放射性医薬品の位置や量によって、他の放射線検査ではわからない身体の機能を画像として見ることができます。放射性医薬品を用いるため、放射線被ばくによる影響が生じる可能性があります。

*放射線がからだに及ぼす影響について

放射線の影響には、確定的影響（組織反応）と確率的影響があります。

確定的影響（組織反応）には、これ以上になると稀に影響が生じる可能性が示唆されるしきい値（しきい線量）が存在すると考えられています。しきい値（しきい線量）を超える放射線量を被ばくすると一定の割合で起こる反応で、代表的な反応に皮膚紅斑や脱毛、骨髄減少などがあります。

1回の検査で受ける放射線量（100mSv以下：低線量被ばく）では、確定的影響（組織反応）が発生することはほとんどないと考えられています。

一方、確率的影響は、被ばくする放射線量が増えるほどその発生確率が高くなる影響で、発がんや遺伝的影響があります。影響が現れる期間は数年から数十年後です。

1回の検査で受ける放射線量（100mSv以下：低線量被ばく）では、その関係は明らかにされていません。

RI検査での放射線被ばく線量は、撮影方法や検査薬、体重により異なりますが、1回の検査で0.5～15mSv程度（量子科学技術研究開発機構より）となります。また、体内に入ったほとんどの放射性物質は数時間で減衰し、体内から排泄されます。

*検査の正当性

放射線検査は、得られる医療情報による利益が被ばくによるリスクより十分に大きいと判断される場合に行われます。

また、放射線検査を一定期間毎にお奨めすることもあります。そうすることで病気の発見や異変、治療効果など適正に検出し、最善の治療につなげることにより、患者さんの「生活の質」の保持・向上に寄与するために行うものです。

*東埼玉病院での被ばく低減の試み

東埼玉病院では、法令や診断参考レベルといわれる患者被ばくの適正化に使用される指標を用いて、放射性医薬品の投与量を最適化し、最適な条件で検査を行い、放射線による被ばくを必要最小限にすることを実践しています。

説明日： 年 月 日

説明医師名： _____